

高校生活を振り返って

俺の高校生活3年間は、みんなに支えられたものだった。

当時中3の頃、公立受験に失敗し、通っていた私立も中退。16歳にしてすることがなくただ途方に暮れていた。だけど、月日が経つに連れて、高校に通う同級生たちに後れを取ることへの焦り等が、自分を不安と孤独に追いやった。正直、怖かった。引きこもりとはいかなくとも、よく街をぶらついた。「ああ、俺何やってんだろう・・・。」

こんな生活の中で、“このままじゃいけない！”と思ったのだろう。高校再受験に向けて一念発起した。最初は周りを気にして、佐世保中央の夜間か通信に行こうと考えていたが、母方の祖父に「昼間の高校に行け！」と意見が割れてよく喧嘩をした。けれども、自分でも熟考した上で、昼間の高校に行くことを決心した。

それからは、受験に向けて、残りの数か月を中学の総復習に費やし、無事合格。入学するにあたって、期待と不安はあったが、自分がみんなより1つ年上であることを包み隠さず話していったら、自然と友達の輪も広がった。男女問わず挨拶や声をかけてくれて、俺自身も挨拶はするように心掛けていた。こういった何気ない会話が自分を元気付けたし、何よりも嬉しかった。

俺はまたこの高校3年間を通して学んだこともあった。

それは、“チャレンジする心”。失敗を恐れずに物事に取り組めたこと、これが1番大きいと思う。中でも、検定試験とバドミントンはいい経験になった。検定試験では、下の級から徐々に上の級に上がっていくに連れて、自分に自信が持てたし、知の財産ともなった。また、バドミントンの方は、高校から初めたスポーツで、やっぱやるからには、生半可な気持ちではやりたくなかったのも、自分の住んでいる町の3つの社会人バドに積極的に足を運んで、色々指導してもらった。その成果もあってか、高校最後の定通大会では、個人で3位入賞することができ、本当に嬉しかった。これらを通して、コツコツやったことが実を結ぶことを肌で感じることもできた。

え〜っと、もう書く内容がないんで、最近自分が思っていることを書こうと思う。

何よりも衝撃的だったのが、東日本大震災。テレビのニュースでそれを見ていたとき、自分の今在る立場について考えさせられた。自分の抱えている悩みなんてちっぽけなもので、そんなことで悩んでいる自分が馬鹿らしかった。自然災害の恐ろしさを知ったし、何もしてあげられない自分の非力さに悲しさよりも悔しさがにじみ出た。なので、そういった意味でも、自分は大学に行きたい。そこで知識を身につけて、間接的ではあるけど、科学技術の開発に従事して、人々を救う立場に立ちたいと考える。もちろん、これは先の話であって、変わることもあると思うけど、これが今思う俺の気持ち。

この高校3年間はホントにみんなに感謝したい。みんなのおかげで3年間無遅刻無

欠席という記録もつくれた。これからも周りに感謝する気持ちを忘れずに生きていきたい。

中央の3年を経て

私が中央高校に入った理由は、服飾部があること、服飾文化という授業が選抜できること、自分で受ける科目を選べることだ。入学して最初に新入生代表の挨拶を言ったのを覚えている。私は小学生の頃か、それ以前からファッションデザイナーになりたいと思っていた。小学6年生の卒業文集で将来持ちたい自分のブランド名を書いたくらいで、そのステップアップの最初として中央高校に来ることを選んだ。今では来て正解だったと思う。中央へ来て、やりたいことを見つけた。まず、在学中にファッションショーをすること。そして、憧れのドレス制作をすること。最後に、服飾系の専門学校へ進むこと。これらの夢は、現時点では既に叶えられている。3年最後の文化祭、福田先生の協力のもと校内で初めてファッションショーが行われた。私は服飾文化の授業分と服飾部で作った分、合計3着を作って着た。時間をかけて作ったドレスで出た時の拍手を、歓声を、今でも忘れていない。そして最近、入学先の奨学生受験の合格を勝ち取ることができた。中央での目標を達成できた今、さらなる大きな目標を抱きたい。

この高校に入って作れたものが、服以外にもう1つある。人と人との縁だ。入学してまず、席が近い人と友達になった。それから、誘われて演劇部と、もともと目的だった服飾部に入部した。演劇部は、その年から廃部になったところを私たちが立て直した。経験者が一人もいない、1からのスタートだった。現在は立て直した当初より2人3人減ったり増えたりはしたが、劇に出ているメンバーは変わらずにここまで来た。3年最後の文化祭の劇は、1年生の頃に比べてもすごく成長したと言われて嬉しかった。個性の強いメンバーばかりで、うまくいかなかったりしたこともあったが、みんなとは本当にいい友達になれたと思う。校長先生が、以前「高校の時にできた友達は一生の友になる」と言われていた。本当にそう思う。特に用事がなくても自然に集まり、笑い合える友が、今の私にはたくさんいる。出会えて、本当によかったと思う。いい先生にも巡り合うことができた。もう学校では会えずとも連絡を取り合ったりして、この縁を大切にしたい。

ここまで夢だの思い出だの書いてきて、具体的に心に残ったことを事細かく書いては文字が足りないの、やはり高校生活最大のビッグイベントを1つ書いてみようと思う。修学旅行だ。私たちの旅行先は東京だった。スキーと自由行動しか記憶に残っていないが、自由行動ではそこで有名なお化け屋敷に入って、自分は見もせずに友人の背中にだけくっついていたり、浅草の土産店で日本刀の模造刀を友人と買い、帰りの飛行機の検査に引っ掛かって長崎まで郵送してもらったりだとか、いつまで語っても飽きないエピソードがたくさんできた。

高校生活を振り返ると、温かい思い出だけがよみがえる。もちろん、後悔したことも辛かったことも、それから学んだこともある。それらも忘れずに、全てを優しい記憶の中に留めておきたい。そして、大人になっても今の仲間と会って、過去を振り返ったり近況を話しあったりしたい。

三年間を振り返って

高校三年間を振り返ってみると本当にいろんなことがあったなと思います。一年生の頃は入学して不安もいっぱいあったけど友達もできて、これから高校生活が始まるんだなという感じでした。一年生でやる行事は初めてのことが多くて、戸惑いもあったけどすべてが楽しかったです。特に文化祭でやったお化け屋敷は、みんなでわいわいしながら準備して放課後とかも遅くまで残って頑張ったのはいい思い出だなと思います。他には、強歩大会も印象的です。友達と4人で頑張って1位でゴールしたのは本当にすごいなと自分でも思ったし、ゴールした後の達成感は大きかったです。2年生では、やっぱり修学旅行が印象的です。初めてのスキーはいっぱい、いっぱいこけたけど滑れるようになってきてすごく楽しかったです。東京観光もあんまり回れなかったけど楽しく観光できました。後はインターンシップとかも印象的です。働いてお金を稼ぐことは、簡単な事じゃなかったし、親への感謝の気持ちも芽生えとてもいい経験になりました。3年生では、定通大会がすごく印象的です。3年間バレーボールしてきて最後の定通大会で優勝して全国大会に出場することができて本当に嬉しかったです。3年生になって初めの頃部員は2人だけで、新しい顧問の先生と頑張って声かけをしたら6人も入ってくれて、人数が足りなくて大会に出られないと思ったけど大会に出場することができました。それからはいっぱい、いっぱい練習して、きつい練習もみんなと頑張ってきました。大会で優勝した時は、今思えば恥ずかしいけど嬉しくて泣きながらみんなと喜んだことが忘れられません。こんな嬉しい思いが出来た

のも釜元先生をはじめチームのみんな、私たちを支え応援してくださった方々のおかげだと思っています。釜元先生は私達のことを信じて、ご指導してくださいました。時には怒られて、はぶてたこともあったけど本当に先生には感謝しています。先生と出会えてよかったです。そしてチームのみんな、まずは●●です。●●がいたから最初部員が2人でも頑張ろうと思えたよ。いろいろ大変だったけど今思えば楽しかったよね。これからもいろいろ頑張っていこう！そして▲▲と■、部活に入って欲しいとお願いしたら快くいいよって言うてくれてありがとう。2人がいてくれてよかったです。最後に1年生の4人にも本当に助けてもらいました。頼りになる先輩じゃなかったけど、最後まで一緒に頑張ってくれて感謝しています。1年生のみんなは、来年も再来年もチャンスがあるので頑張ってください。応援しています。何か手紙みたいになったけど本当にみんなに感謝しているし、部活で得たものは私にとってかけがえのないものになりました。

私は卒業して社会人になります。働いてお金を稼ぐということは簡単なことじゃないです。時には仕事を辞めたいと思うことだってあると思うけど、その時は、高校でやってきたことを思い出して、あの時頑張れたんだから、今も踏ん張って頑張ろうという気持ちで乗り越えていこうと思います。そして、感謝の気持ちを忘れず笑顔で頑張っていきます。

みんな今までありがとうございました。

「3年間振り返って」

4月、私は中央高校に入学した。中学の時に一緒だった人も何人かいたがあまり、喋ったことがない人が多かった。だから、入学式は緊張と不安な気持ちだった。私の性格は、人見知りで自分からあまり声を掛けることができない。入学式のときも仲良くなっている子が多く自分1人でいるのがすごく不安だった。しかし、1人の女の子が話し掛けてくれた。その子は、とても明るく自分から積極的に何でもする子だ。その子のおかげでたくさんの友達ができたと私は思っている。

2年生になり、新しいクラスになった。2年生での思い出は1月にあった修学旅行だ。修学旅行は、長野と東京に行った。長野では、スキーをした。スキー初日は、すごく難しく雪に慣れていない私はこけてばかりだった。周りにいたクラスのみんなは基礎から上達するのが早く1人で頂上から下の方まで滑っていった。私はこけてばかりでインストラクターの先生に迷惑をかけてばかりだった。スキー2日目は、友達が風邪を引いてしまって私は寂しく1人で滑った。スキー2日目ということもあって初日にくらべては上手く滑れるようになっていた。楽しかった反面、筋肉痛にも

なりつらかった2日間だった。4日目の最終日の東京ではフジテレビに行った。たくさんの番組のグッズが置いてあって楽しかったが、私が腹痛になり買い物もできず友達に迷惑をかけてしまった。修学旅行は体調を崩すこともあってきつかったがこれも私の中ではいい思い出だ。

私も3年生になった。3年生での思い出は文化祭だ。私は3年生になってESS部に入部した。部員が全員3年生ということもあり、あまり部活らしいことができなかった。しかし、文化祭では忙しい中、協力して出店することができた。ALTのアリー先生と会話することは、英語が苦手な私にとって大きな壁だった。文化祭の準備を通してアリー先生と少しずつ打ちとけ合うことができた。ジェスチャーまじりの上手とはいえない英語だったが、アリー先生は一生懸命聞きとってくれた。そんなアリー先生の姿が嬉しくて、私は積極的に徐々にだが会話をするできるようになった。文化祭当日、接客が苦手な私は最初のお客さんに戸惑ってしまった。しかし部員の明るい姿を見ていると自然と接客することができていた。私は文化祭を通して、苦手なことから逃げずに立ち向かうことを身に付けることができた。3年生になってからは進路を決めなければならない。私は最初に受けた企業はA社の製造だ。しかし、夏休み練習していた面接の練習も9月に入ってから体育祭の練習があつてサボってしまっていた。夏休みにスラスラ答えられていた質問の答えもうまく答えられなくなっていた。本番でも緊張してしまって作文もうまく書けず、面接でも言葉に詰まってしまう結果は落ちてしまった。その時、私は改めて面接と作文の練習の大切さに気づき、次は絶対に受かろうと思った。それから、進路の先生と親と話し合っただけで次に受ける企業を決めた。決めた職種は介護士だ。最初は、介護士という仕事はしないと決めていた。なぜなら、姉が介護士の仕事をしているからだ。介護士という仕事は看護師や医者と同じで命を預かる仕事だし、つらい事もたくさんあるというのを聞いていて、私は介護士という仕事を避けていた。しかし、たまに姉は入居者の方の話を楽しそうに話してくれる。その話を聞いているうちに私も介護士の仕事をしたいと思う気持ちになっていった。私は、募集があつていたB社を受けることにした。面接も前よりうまくできて作文も練習した甲斐があり、書くことができた。3日間の実習もあり、実際に利用者の方とも話すことができた。入浴介助はとても大変で本当に入社したら自分もちゃんとできるのかという不安も出てきた。しかし、気持ちがいいと言ってくれる利用者の方の笑顔を見ると頑張ろうという気持ちにもなれた。大変な仕事だとわかったがとてもやりがいのある仕事だと思った。これからたくさん介護のことを勉強して信頼される介護士になりたいと思った。この三年間、楽しいこともあり辛いこともあったが優しい友達や先生たちに恵まれて私は本当によかったと思っている。これから別々の道を歩むことになる友達もいるが、お互い頑張っていきたいと思う。

『さらば高校生』

僕がこの中央高校を選んだ訳は自分に一番向いていると思ったからで、実を言うと最初は工業高校に行くつもりだった。が、よく考えてやっぱりムリかと思い留まって中央高校へ進学することに決めたのが始まりだ。

入学式は色々あって出られなかった。高校の始まりはついてなかったがもう忘れよう。

授業が始まってくると中学の勉強も碌にできていないのについていけるのか不安だったが、意外と理解できてついていけたのでそこら辺りはよかったと思う。

一年の頃の思い出といえば、バスに乗ってどこかの山に行った歓迎遠足がその一つ。空が曇っていて周りの景色は余り見ることが出来ず、残念だったが遠足の遠足というのはいつになっても良いものでこれはいい思い出だ。文化祭もいい思い出になるころだったのかもしれないがなぜか熱が続いて出られず、前日に買っておいた肉まんの金券も無駄になってしまい損したのを覚えている。1月には強歩大会があった。ビリから五番目くらいの順位だったが少しはいい運動になったのでそれはよしとしよう。

二年生の時は結構心に残る出来事が多かった。一つは文化祭で一年の時に出られなかった分、楽しみにしていた。自分のクラスの出し物は時間がかかって本番迄に間に合うのか心配だったが前日遅くまで残って完成させることが出来た。結果はどうあれ文化祭を楽しめたので良かったと思う。そしてもう一つは強歩大会で、とてもきつかったのを覚えている。始めの上りは大してきつくはなかったのだが、後からメンバーが急に走り出して弓張の山頂に着いた頃にはやばかった。しまいには帰りの下り坂でも走り出して脇腹が痛くてたまらなかったが、そのかいもあり3位でゴールできて表彰された。一年の頃より早くなったのは嬉しかったけれどもあまり体力に自信のない自分にとっては、多少苦い思い出になったし、逆に心に残った。その他にも職場体験などもあってあれは社会に出る上でとてもいい経験だったと思う。

そして三年生になった。三年も様々な出来事があって体育祭は特に印象深い。今まで小学、中学と何度も体育大会というものをやってきたが、学校生活最後の体育大会ともなると少し寂しい気持ちになった。綱引きやらリレーやらも最後になるので力を尽くして精一杯やったし、皆も頑張っていて楽しい体育祭にすることが出来た。なにより悔いを残さずに終えられたので良かった。

高校三年生は楽しむとは別に悩みも出てくる。進路の事では自分も悩んだ。一年生の頃は所詮2年後のことだと思っていたのに時間というものには気づかない内に過ぎていって直ぐに三年生になってしまった。色々迷ったが実のところ勉強というのは好きな方ではなかったし兄弟は頼りないから自分がきつさと働いて親に育てて貰った分を返そうと考え就職することに決めた。

就職に決めたのはいいけれども仕事があるのかも分からなかったし震災の影響もあり色々不安だった。しかし、夏休みの自習みたいなものにも通ったりしている内になんとか自分に合った会社を見つけ出せた。

そして試験の日。当日は曇っていたような。会社の面接は学校で先生方に面接の練習を多くはないがして貰ったのでなんとか答えることが出来た。試験の結果はなんと合格でまさかこの自分が受かるとは思わなかった。帰ってから母ちゃんや知り合いに報告したらとても喜んでくれた。めでたし、めでたし。

以上がこの3年間にあった出来事なのだがそれにしても高校3年間はあっという間に過ぎ去った。これで学生生活が終わってしまうと思うと、とても残念な気持ちになるけれどもこればかりはどうしようもない。今後はこの学校で学んだことを生かして頑張っていきたい。中央高校へ来て様々な事があったが今は入学して本当に良かったなどと思う。先生方にもお世話になった。有難うございました。そして皆さんと中央高校にもありがとう。さらに最後にさようなら。

三年間を振り返って

高校生活三年間、印象に残っていることは正直少ない。一年生の頃の記憶は、全くと言っていいほどない。それくらい印象の薄い一年だった。

学年が上がって二年。私は、初めて自ら HR 委員に立候補した。とくにやる気があった訳ではなく、暇つぶし程度になると思ったのだ。だが、暇つぶしにもならずダラダラとした日々が続いた。

二年後期。修学旅行の季節がやって来た。気乗りのしない東京観光、長野でのスキー。重たい身体を引きずり、嫌々家を出た。

一日目の浅草。東京には何度か来たこともあり、ただ友達の買い物に付き合っていた。なんの楽しみもなくボーッと歩いていると、ある店に目がとまった。プラモデル店だ。欲しいものがいくつかあったが、どれも大きく持ち運ぶのに不便なため断念し、小さいプラモを一つだけ購入した。

次に目にとまったのは、きびだんご屋。その店で働くお姉さんがあまりに綺麗だったので、買う予定はなかったがお姉さんに釣られてしまい、きびだんごを購入した。おだんごは美味しく、お姉さんの声も可愛かったので、後悔はしていない。

一日目の夜。話が弾み、翌日寝不足になってしまったが、とても楽しい一日だった。

二・三日目のスキーは記憶にない。

四日目のお台場。お台場では、遊ぶよりもお土産を買うことを目的として回った。ス●ムダククの靴下を見つけ、即購入した。背番号 14 番の某イケメン君がなかったの

は残念だったが、きっと人気で売れ切れていたのだと思いたい。

行く前は、嫌で仕方なかったけれど、思った以上に楽しめた。班のメンバーに恵まれたのだろう。

そして私は、最高学年である三年生になった。三年生での目標は、遅刻癖をなおすこと。一・二年の時、年間の遅刻日数が百近くになるほど遅刻が多かった。さすがにまずいと思った私は、最高学年としての自覚を持ち、遅刻を無くそうと決めたのだ。だが、そう簡単に生活リズムを変えることはできなかった。それでも遅刻日数は半分まで減らすことができた。今の私には、それでも十分だと思えた。

遅刻が減るたびに、「最近がんばってるね」と先生方に声をかけてもらえることが、本当に嬉しかった。褒めてもらえることよりも、努力に気づいてもらったことが嬉しかった。今では、時間ぎりぎりではあるが、遅刻をゼロにすることができた。

この三年間は、特に意味のない三年間で早く卒業したいと言い続けていたけれど、とても充実した三年間だった。

口が悪く、冷たくしてしまうことが多かったが、本当にみんなと過ごした時間は楽しかった。私は、周りの友人に恵まれて、幸せ者だと思う。

本当にありがとう。三年間お世話になりました。

部活の思い出

私は、三年間一度も休まず部活をすることができました。卓球をしようと思ったのは、個人で能力を伸ばすことができる個人競技をしてみたいと思っていたからです。卓球部があることを知り、入部しようと思いました。

私が初めて練習場へ行ったとき、三年の先輩方はとても優しい方たちで、温かく迎えてくださいました。卓球経験は一度もなく、どのラケットを使えばいいのか、握り方、振り方も分からず基礎から丁寧に教えてもらいました。正しい振り方でやっても球を当てるのが難しく、空振りすることがたくさんありました。しかし、先輩に球をラケットに当てることより、ラケットの振り方をマスターしなければ当てることはできないと言われ、素振りの練習を重点的にしました。いつの間にか正しく振れるようになりました。その後は速い球で、ネットぎりぎりの低いところに確実に狙えるように練習しました。先輩には球出しをしていただき、悪いところは指摘されながら改善するように頑張ってきました。一対一でラリーもしました。実戦でもラリーが続けられるようになったら「攻め」の卓球をするような練習もしてきました。最初の定通大会後、三年の先輩方が引退され部員がほとんどいなくなりましたが、新たに二年の先輩が入部されました。先輩方は、以前卓球部に入部していたことがあるそうですが、

また卓球をすることを決められたそうです。早速、先輩たちとラリーをやりあいました。半年もやっていると、あまり外すことなくラリーを続けることができました。卓球は点を取ることもですが、ラリーを続けられるとできるようになったという実感がわき楽しくなります。

二年生になると部員も少し増え、また賑やかに練習に打ち込みました。次の定通大会は初出場先輩とダブルスを組むことになりましたが、今までシングルでしか練習をしていませんでした。知らないことが多くルールなどは雑誌などを見て覚えるようにしました。大会当日になり、団体戦から始まりました。自分のダブルス戦の番となり、初めての試合で緊張気味でしたが、先輩と息を合わせ、少しずつ点を稼ぎました。もう少しのところで一セット取れそうなきが何回もありましたが、対戦相手が手ごわく一セットも取れなかったです。個人戦では相手がとても強く、苦手な回転をされほとんど点が取れなかったです。それでも諦めないで一点でも多く取ろうと頑張りました。定通大会は終わり部員がとても少なくなっても、苦手な回転が打てるように練習しました。十二月になると一人部員が増えました。その部員は中学校で卓球をしてたくさんの技ができるのでいろいろ教わったりしました。

三年生になるとまた部員が増えました。そのころサーブ数が少ないと思い、サーブ練習もするようになりました。なかなか思うようにサーブが決まらず諦めそうになりました。しかし、部員同士で試合をしていると同じサーブしかできないので、すぐに見極められます。別のサーブもできるようにならないと試合では勝てないと思い、またサーブ練習を頑張ることにしました。一つ新しいサーブができたころ、最後の定通大会が始まりました。自分は団体戦にはダブルスとシングルスに出ることになりました。ダブルスでは新しくできるようになったサーブを使い、初めて一セット取れました。しかし、頑張っても相手に先に三セット取られ負けてしまいました。シングルスでは練習はしていたけど、苦手な回転を克服できませんでした。頑張っても一点でも多く取ろうとしましたが、負けました。個人戦は少しずつ点を取ることができましたが、もう少しのところセットを取れず、負けてしまいました。今まで試合をやってきて満足できる結果は出せませんでした。しかし、諦めないで頑張ること。これが一番大事なことだと思いました。

部活から学んだこと

部活の掛け持ちが、楽しかったり大変だったり、高校3年間の学生生活を充実させてくれました。そして、多くのことを学び、考え、行動する事の大切さを知ることのできる大切な時間でした。

私は、JRC部と写真部に所属していました。JRC部は、私が入った時は、2年生がおらず、3年生7名、1年生2名の部でした。3年生の先輩方は、大学受験の先輩が多く、文化祭の手伝い以外は、4月から9月までの、たった5カ月程度しか一緒に活動できませんでした。でも、たった5ヶ月の間に多くの事を学ばせて頂きました。活動内容での注意点はもちろん、学校生活の事や、先生方のされた面白いこと、教科選択で、選択しない方が楽できる教科など、多くの話をしました。本当にくだらない話から真面目な話まで、週1回の活動がとても楽しみで、楽しかったのを今でも思い出します。

2年生になって同学年のメンバーが増え、先輩方が居た時とは、別の楽しさがありました。活動にも慣れ、3年生で後輩が入ってきて、大変なこともあったけど、とても楽しい部活でした。

写真部での活動は、個々のもので、他の部員の名前も知らなければ、顔も知りませんでした。その状況を不安に思っていた時もありましたが、自由で、時間にも、場所にも捕らわれることのない部活に、やりがいを感じました。縛られる事がないからこそ、自己責任で、しっかりと活動しないといけないとわかりました。行動することの大切さ、先生や先輩に頼りすぎず、自分で考え、行動することの大切さを、1年生で学ぶことができました。

3年生で部長になったとき、学校での行事等で、写真部として活動することになりました。写真部の部員全員で活動することはできませんでしたが、写真部という部活の活動を、多くの方に認めてもらえたのは、嬉しかったです。定通大会や運動部の練習風景、生徒会選挙、体育祭などの記録係として、写真部の活動の場を広げることができたのは、多くの先生方や、先輩方や後輩のお陰です。そのことを実感し、感謝したのは、定通大会に記録係として連れて行って頂いた時です。今まで、先生方に、何かを撮ってくれなど、言われたことがなかったので、すごく嬉しかったのを覚えています。

1人で何かをするのは大変だけど、自分が行動しなければ、何かをすることも、誰かに信頼される事もないのだと、改めて知ることができました。そして、何代も前の先輩方の努力や、自分自身の行動、後輩たちの努力によって出来ることがあるのだと、知ることができました。自分一人の力ではなく、顔も名前も知らない、でも、確実に何かを残してくださった方々の力に支えられていること、これまでに関わった方々の力に支えられていることを、この3年間で、改めて学ぶことができました。学んだことを忘れることなく、大切にしながら、自分が決めて、目指した道を歩いていこうと思います。